

事例 No.	48	人口規模	10万人以上	地域ブロック	関東	事業タイプ	体験	事業主体	地方公共団体
事業名	キッズ・ボランティア								
実施地方公共団体名	中央区(東京都)								
特徴・ポイント	小学生・中学生の児童館利用者が、来館した時に「その場で交流ができる」無理なく参加児童には「かわいい！ 大変！」などの体験ができる。								
事業のねらいと内容	<p>【ねらい】 異年齢・世代間の交流を図る。乳幼児の保護者には育児からの一時の休息の場とする。参加児童にとっては「あかちゃんと触れあう体験」を通して、「本心からかわいい！と実感できる」体験をくりかえすことにより、人の命の尊さを知る</p> <p>【内容】 「キッズ・ボランティア」として、乳幼児コーナーに入室し、あかちゃんと触れあい遊ぶ。職員があかちゃんの抱き方や遊びかた、環境設定などを指導する。</p>								
導入・実施の背景・経緯 (事業の必要性)	乳幼児親子の遊び場、利用できる部屋として「乳幼児コーナー」を設置し児童の入室は禁止していた。利用児童の多くは核家族であり、あかちゃんに触れる機会が少ない。又、保護者の中には、育児に疲れている方も来館している。少しの時間でも他の人が乳幼児を見てくれることにより、ホッとした時間が得られる。双方にとって必要な事業として行う。				導入・実施に際して苦労した点				
事業の効果	参加児童からは「あかちゃんを初めて抱っこしてかわいかった」「弟・妹が欲しくなった」、乳幼児保護者からは「息抜きの間として利用させてもらっている」「自分自身が赤ちゃんに触れたことがなかったので母親になったとき困った。とてもよい事業だ」、参加児童の保護者からは「やさしくなった」等評判がいい。乳幼児コーナーの参加者が増えた。				実施にあたってのネックをどのように解決したか				
事業のアピールをどのように行なったか	PR としては館内に「キッズ・ボランティア」として掲示している。				人材について 担当職員が保育士であり、乳幼児から母親・学童児と、はばひろく対応できることが事業にとってメリットである。 小学生から乳幼児への感染症の病気(逆の場合も)に対するの危惧有り 参加児童保護者には事前に申込書を提出してもらう。当日、児童の体調等によっては参加できないこともある。				
概算事業費 (千円/年度) 平成18年度予算	0千円				問い合わせ先		所属部署:福祉保健部子育て支援課子ども家庭支援センター準備主査 TEL:03-3546-5388 FAX:03-3546-2129		